

都道府県高等学校野球連盟
審判委員の皆様へ

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「甲子園から全国へ～第105回全国高等学校野球選手権記念大会」

今大会では、選手の障害予防や熱中症などへの対策を目的に、ベンチ入り人数が18人から20人に変更されました。さらに暑さ対策として、5回裏終了時にはクーリングタイム（グラウンド整備を含め10分間）が初めて導入されるなど、選手の体調を最優先に考えた取り組みを行いました。

また、今春のセンバツ大会から開始イニングが10回からとなったタイブレークは6試合あり、9回換算の試合時間は2時間22分（104回大会2時間15分）でした。

ここで、今年度の「重点指導事項」および「周知徹底事項」を踏まえ、今大会を振り返ります。

1 マナーについて

- (1) ユニフォームの着こなし
上着をだぶつかせた着方によりベルトが見えない着こなしが散見されました。
- (2) グラブの締め紐について
長い締め紐を処置していない選手が多く見受けられました。
- (3) 攻撃側ベンチから「塁上の走者に給水させたい」とタイムの要求がありました。
走者本人からの申し出ではなく、また給水を要する状況ではないと審判委員が判断したため容認しませんでした。
- (4) エルボーガードを装着している打者が肘を出して投球に当たる行為。
- (5) 勝利チームの校歌斉唱が終わったあと、主将が相手チームに改めて「礼」をする行為。

2 規則に関する事項について

- (1) 捕手がボックスから大きく出て構える行為
- (2) 二塁走者の前に遊撃手が立ち、視界を遮るアンフェアな行為

3 投手の投球動作について

- (1) 無走者時、セットポジションをとった投手が完全静止しないで投球する。
- (2) 軸足の踵を上げてから投球（ヒールアップ）する。
- (3) 無走者時、自由な足を止めることや段階を付けて投球する。

4 試合進行について

- (1) 攻守交替に時間を要するチームがありました。
- (2) 捕手の1人歩きが多いチームがありました。
チームによっては監督が捕手等に指示してマウンドに行かせる場面がありました。
- (3) 規則適用があった場面では、状況により場内放送やスコアボードを活用しました。

以上1～4については、大会本部委員の先生方とも共有しながら、指導・改善に努めました。

5 審判技術の課題

- (1) ベース付近の打球判定
- (2) ランダウンプレイ

おわりに

リプレイ検証やリクエスト制度のない高校野球では、審判委員の判定が最終です。選手、指導者、観衆などに納得される「正確な判定」を追求し、基本的に忠実なアンパイアリングを目指して日々研鑽し努力し続けなければなりません。

そのためにも、全国の高校野球に携わる皆様と積極的に情報交換を行い、技術力をさらに高めていくとともに、引き続きテンポよくスムーズな試合進行に取り組む必要があると考えます。

以上